

コンクリ二次製品に革命



「今回、長期ビジョン『人口が減るから自分で『みらい工場』構 動化して工事をすろと想を打ち出しました。』という単純な話ではな

ベルテクスコーポレーションはマンホールやボックスカルバート(箱型構造物)などコンクリート二次製品の「生産革命」に挑む。2024-26年度の中期経営計画と同時に発表した長期ビジョンで、10年後に向けてスマート化を追求する「みらい工場」構想を打ち出した。建設業界の人手不足は特に深刻であり、抜本的な業務プロセス改善や生産性向上が避けて通れない。土屋明秀社長に10年後のありたい姿を聞いた。

ベルテクスコーポレーション社長 土屋 明秀氏

生産スマート化を追求

「我々の製品は個別設計で一つひとつ違うから、自動化しても生産性が上がらない。通常のコンクリート製品はセメントと砂、砂利、水を混ぜてつくり、それを型枠に流し込んで2週間養生させる」

「研究開発やデジタル変革(DX)、人工知能(AI)へ成長投資を重点的に配分します」

「新しい素材を開発し、プロセスに革命を起こさなければいけない。現在の納期は注文から1-6カ月後が一

般的だが、3次元(3D)プリンターなどから、自動化しても生産できるようなスマート工場を構築している」

運ぶことも多い。(従来はプラントでコンクリート製品をつくらせて現場で組み立てるプレキャストが主流だが)工場のプラントをトラックに載せて現場に持ち込む構想だ。トラックに載せる部分は、24年末に兵庫第2工場(兵庫県小野市)に導入する。(工場に縛られず)工場周辺で需要がなくれば、他の地域にモバイルプラントを移動すればいい」

M&A巧者、基盤固め進める

ベルテクスコーポレーションは18年までに同業4社が段階的に統合して誕生した。直近23年度の売上高営業利益率は15.5%と高水準で、市場からM&A(合併・買収)巧者と評価される。同業のほか設計コンサルディングや施工会社など、さらなるM&Aを狙いつつ、10年後を見据えてメーカーとして製造基盤を強化する考えだ。

(編集委員・鈴木岳志)

記者の目

他の工場に横展開していく。蒸気の養生などを遠くまで運ぶ必要がないので、それから解放を手がけているので、一つの工場から遠くへ